

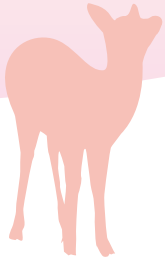


まほろばだより

2016
Summer
vol.18

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第18号



Contents

- ① ハラスメント防止啓発ポスターを作成しました
- ② 第5回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました
- ③ 良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」講義を実施しました
- ④ 本学教員・研究者・学生および附属病院勤務医師の女性割合について
- ⑤ コミュニケーションスキルを学ぼう！
第18回「気付かずにやっていませんか？STOP!これが、セクハラ」
- ⑥ Information

>>>Report 1

ハラスメント防止啓発ポスターを作成しました

本学ハラスメント防止規程に規定するハラスメントについて定義が定められたことを受け、この度セクシュアルハラスメント・パワーハラスメント・アカデミックハラスメント防止に関する啓発ポスターを作成しました。ポスターは学内各部局に配布し啓発に活用いただいています。今回はセクハラの内容について、最終ページにて詳しくご紹介します。



>>>Report 2

第5回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました

7月5日、本学臨床第一講義室にて「第5回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞授賞式」を執り行いました。

本学では、優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に「女性研究者学術研究奨励賞」を設置しています。

今回は、3月17日に選考委員会が開催され、皮膚科学講座宮川史講師が選考されました。授賞式では、細井学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、宮川講師が「CD8T 細胞免疫からみた皮膚疾患の病態解明」について講演されました。



【宮川先生からのコメント】

この度、第5回女性研究者学術研究奨励賞を受賞させていただき、細井学長を始め、関係者の方々に深く感謝申し上げます。また研究を継続するにあたってサポートをいただいている皮膚科学教室の浅田教授、教室員の方々に心より御礼申し上げます。私は大学院、留学中を通じてT細胞免疫に関する基礎的な研究を続けて参りました。その知識を生かして今後は自己免疫疾患、薬疹等の皮膚疾患の病態解明をすすめていきたいと考えています。この受賞を励みに、少しでも quality、originality の高い一流の研究に近づけるように努力していく所存ですので、どうかよろしくご厚意申し上げます。



医学科6年一貫教育カリキュラムに組み込まれている良き医療人育成プログラム「ロールモデルを探す」の講義を担当し、医学科2年生115名を対象に4月8日～22日にわたって毎週1回の講義を実施しました。

講義は基調講演、グループワーク、グループの代表者と講演者とのディスカッションの3部形式で、講演者には地域中核病院勤務医、クリニック開設者、奈良県医師会理事、大学教員といった異なる立場でご活躍されている男性医師4名、女性医師2名をお招きしました。各先生方にはご自身のキャリア形成の過程を紹介し、医師として大切にしている信念、ご自身の今後の夢や目標について講演していただきました。壇上で行われたディスカッションでは学生からさまざまな質問や意見が出され、活発な議論が交わされました。

◆第1回（4月8日）

「地域中核病院で働く～男性編～」大阪暁明館病院産婦人科部長 吉田昭三先生
 「地域中核病院で働く～女性編～」土庫病院消化器病センター-外科医師 横谷倫世先生

【学生の感想】

- ・活躍する場を自ら切り開いていくことの大切さに気付いた。
- ・医師になることが最終目標ではなく、自分がどのように医療と向き合っていくべきかが大切だと感じた。



ディスカッションの様子

◆第2回（4月15日）

「開業医の挑戦 10年目」くずもとファミリークリニック院長 葛本幸康先生
 「医師会で地域医療に貢献する」奈良県医師会整形外科医師 岩井誠先生

【学生の感想】

- ・自分はなぜ医師を志したのかということを変更して考える機会になった。医師である前に一人の人間として、他者との関わり合いの中で、相手を思いやる気持ちを常に持って生きていこうと思った。
- ・医師会の活動によって地域への貢献ができ自身の経験も深められると感じた。



岩井誠先生

葛本幸康先生

◆第3回（4月22日）

「大学で若手医師を育成する」本学地域医療学講座 赤井靖宏先生
 「大学で先端の画像診断に取り組む」本学総合画像診断センター 平井都始子先生

【学生の感想】

- ・学生のうちから現場に立つことを意識して日々の学習をこなすのが大事だと思った。
- ・ただ病気を治すだけではなく患者と向き合うことの大切さを学んだ。周りの人と自分を比べたりせず自分のペースで進んでいくことは、難しいが大切なことだと改めて思った。

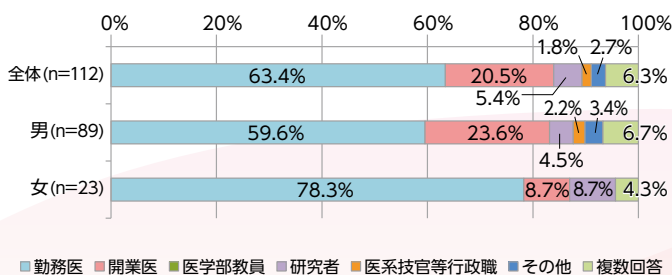


赤井先生（左）、平井先生（右）

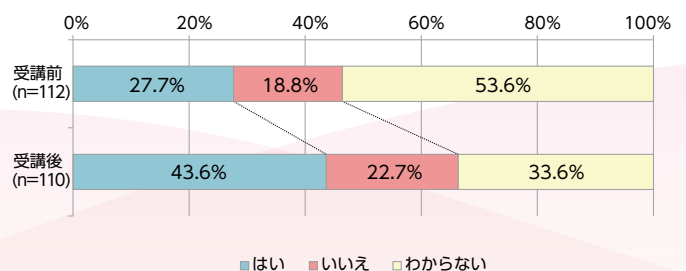
2年生に対する講義を行うのはセンターとしても初めてのことでしたが、たくさんの先生方にご協力いただき無事終えることができました。講義終了後のアンケートでは53.6%の学生が3回の講義を通してロールモデルとなる人に出会えたと回答。また、学位取得を目指したいと回答した割合も受講前と比べると約16%増加し、自身の将来について主体的に考える機会となりました。

【講義終了後のアンケート結果】

Q. 将来どのような道に進みたいですか



Q. 学位取得を目指したいと思いますか



本学の医学部、医学科の女性割合および女性教員採用割合はセンター設立前の平成22年から徐々に増加し、離職率をみても平均すると男性より低くなっており（表1）、女性にとって働きやすい職場環境が整ってきています（図1）。しかし博士課程大学院進学女性の割合が医学科学生の27.1%と比べて18.5%と低いため（図2）、アカデミックキャリア男女間格差の是正を目指して学部学生へのキャリア教育が必要だと考えます。

▶本学正規教員における女性割合の増加

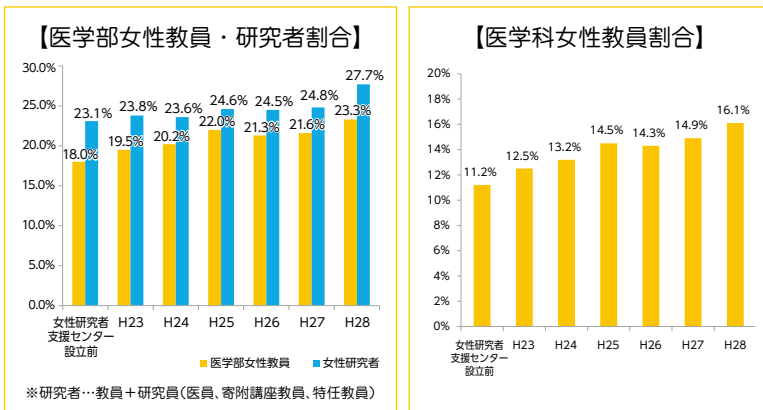
医学部女性教員：平成22年度（女性研究者支援センター設立前）60名⇒平成28年度85名（25名増）

医学部女性教員割合18.0%⇒23.3%（5.3%増）

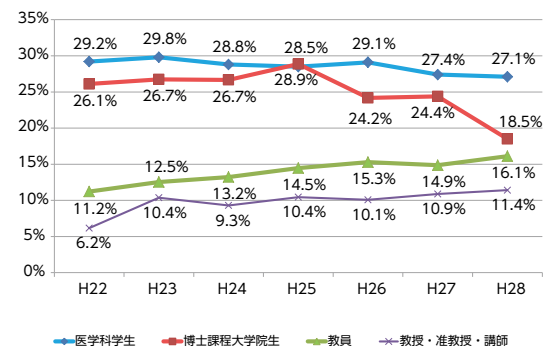
医学科女性教員：平成22年度（女性研究者支援センター設立前）34名⇒平成28年度53名（19名増）

医学科女性教員割合11.2%⇒16.1%（4.9%増）

〔図1〕女性研究者割合の推移



〔図2〕医学科学生・博士課程大学院生・教員・上位職教員の女性割合



〔表1〕女性教員採用割合と離職率

区分	H25年度	H26年度	H27年度
医学部女性教員採用割合	13.2	22.2	31.4
医学科女性教員採用割合	11.4	16.7	22.2
医学部女性教員離職率	6.6	9.5	9.1
医学部男性教員離職率	10.0	9.1	11.8
医学科女性教員離職率	6.7	13.3	10.4
医学科男性教員離職率	10.2	9.3	12.0

注)

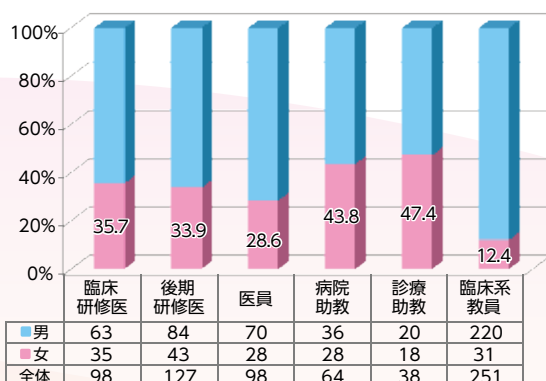
女性教員採用割合(%)=女性教員採用数/男女教員採用総数×100
 女性教員離職率(%)=女性教員離職数/女性教員数×100
 男性教員離職率(%)=男性教員離職数/男性教員数×100
 離職者に定年退職者は含まない

一方、臨床医学系教員の女性割合は基礎医学系（25.6%）や看護学科（86.1%）と比べて低く、臨床研修医・医員の女性割合は約36%にもかかわらず、教員になると12.4%と大幅に下がっています。臨床医学系女性教員31名の所属内訳は図4の通りで、産婦人科学講座では6名と最も多くの女性正規教員の方が活躍されています。本学で医局機能を持つ22講座+感染症センターの中で、女性正規教員が平成28年5月1日時点で0人の講座は下記9講座となっています。

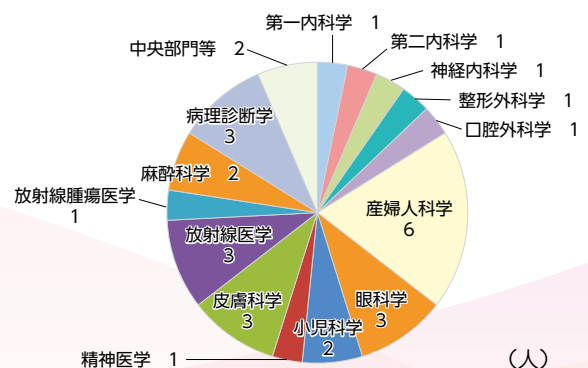
▶第三内科学、消化器・総合外科学、脳神経外科学、胸部・心臓血管外科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、救急医学、総合医療学、感染症センター

今後も本センターでは中期計画に沿った臨床医学系女性教員の増加を目指して様々な取り組みを行っていきます。

〔図3〕医師の職位別の男女比



〔図4〕臨床医学系女性教員の所属内訳



(人)

※数値は全て5月1日時点のものです

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第18回 『気付かずにやっていませんか？STOP!これが、セクハラ』

トップページでもお知らせしましたが、この度本学ではハラスメントの定義が下記のとおり定められました。今回はセクシュアルハラスメントの定義、該当する行為について詳しくご紹介していきます。

<定義>

「異性間のみでなく同性間においても相手方の意に反する性的な言動又は性差別的な意識に基づく言動を行うことにより、その者に精神的、身体的苦痛又は不利益を与え、学業や職務に支障を生じさせたり、就学・就労環境を悪化させること」

<該当する行為>

- ・性的及び身体上の事柄に関する冗談やからかい
- ・わいせつ図画の閲覧、配布、掲示
- ・性的なうわさの流布
- ・不必要な身体への接触
- ・性的な言動により、他者の意欲を低下させ、能力の発揮を阻害する行為
- ・食事やデート、交際への執拗な誘い
- ・「男らしさ」「女らしさ」などの固定的な性役割規範の押しつけ、要求
- ・セクシュアル・マイノリティ批判や差別
- ・性的な言動への抗議又は拒否等を行った者に対する不利益な取扱いなど

セクハラは個人の尊厳を不当に傷つけるだけでなく、能力の発揮を妨げたり、組織の秩序や業務遂行を阻害することにもつながる社会的に許されない行為です。普段から性別関係なくお互いを尊重し合い、思いやりを持って行動することを心がけましょう。



>> Information

なかよし保育園定員の増員、病児保育の紹介

教職員の保育ニーズに対応するため、学内保育園（なかよし保育園）では平成24年度の全面改築に引き続き園舎の増築が行われ、平成27年4月より定員が60名から90名に増員されました。現在は82名の児童が入所しています。（平成28年7月1日時点）

また、平成27年1月からは、民間医療機関と連携し病児・

病後児保育を実施しています。利用にあたっては、当日の受付をスムーズにするために、お預かりするお子さんの健康や日常生活について事前に把握することになっています。学内ホームページ（総務課・人事課）から登録申込書をダウンロードし事前登録を行ってください。

【連携医療機関】医療法人吉川医院キッズケアルーム

【対象となる病気】感冒、下痢、嘔吐など日常よく見られる疾患。喘息など慢性的な疾患。風疹、おたふくかぜ、インフルエンザなど感染症

【対象年齢】生後6ヶ月～小学3年生（相談応）

【利用定員】原則4名

【利用料金】

区分	平日8:00～18:00	土曜8:00～12:30	延長料金 平日7:30～、～18:30 土曜7:30～、～13:00
生活保護世帯、市民税非課税世帯	無料	無料	延長料金30分300円毎
上記を除く所得税非課税世帯	1,000円	500円	延長料金30分300円毎
所得税課税世帯	2,000円	1,000円	延長料金30分300円毎



増築された園舎



園舎内の様子

[編集後記]

平成23年度から実施しているライフイベント中の女性研究者の研究活動を支援する研究支援員配置制度ですが、今年度上半期は支援員配置を希望された女性研究者全ての方に支援員をマッチングし、配置を行うことができました。下半期の配置希望者の募集も例年通り行いますので、対象となる女性教員・診療助教及び研究助教の方は是非制度の活用をご検討ください。詳しくはまほろばHP研究支援員配置のページをご覧ください。

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学基礎医学棟5階

TEL：0744-23-8011（直通）0744-22-3051（代）内線：2525

E-mail：jshien@narmed-u.ac.jp

